

お茶目な木彫り動物・竹村眞展

2月13〜27日、高知こどもの図書館で竹村眞さんの木彫り動物の個展が開かれました。高知新聞2月17日付でも紹介され多くの方が訪れました。開催にあたり竹村さんのあいさつを掲載します。(高退協ニュース編集部)



再任用(一年間)を経て昨年退職し、早や一年が経とうとしています。退職の節目として、上記の日程で、初個展を開催することになりました。

最近作は、風神の「風太右衛門」と雷神の「雷太左衛門」です。俵屋宗達の風神雷神図から抜け出した動物彫刻です。風太は言います。「最近、各地で頻発する豪雨災害が、僕たちの暴走のせいだと思われているように感じ、それは違うと思うんだ。僕たちは、自然そのもの。地球温暖化の影響

木彫りを始めたのは、約5年前、中学時代の恩師から、小さな木片をい

ただき、飼いだ犬を彫ったことがきっかけでした。あれからまったく素人のまま、今も手探り状態で彫っています。今回の展示は、「猫シリーズ」「猫?ねこ?シリーズ」「チョコ(犬)シリーズ」「キヤラクター」「古典シリーズ」「笛シリーズ」「番外編」の構成となっておりま



は、自然の摂理に従うならば、地球規模でバランスをとっている結果だよ。」「暴走しているのは、人間

雷太は続けます。「人間はエネルギーを得るため地球環境を破壊し、戦争を起し、自らの首を絞めている。それは本末顛倒じゃないか!」

小島さんは高退協の読書会のメンバーとして長年参加されており、一昨年の高退協学習会



先輩訪問 凜としてチャールミング 小島真子さん



では、講師として読書会の報告をして頂きました。今年、米寿を迎えられました。私は採用時に同じ職場で、その時に分会長だった小島さんに誘われて高教組に加入しました。小島さんは近年、骨折したり、手首にはポルトが入っているようですが、その姿は昔も今も颯爽と

大会で「教育問題」の講演をした後に倒れました。わずか38歳で夫を亡くされ、こんなに辛いことがあるのかと思つたと話されていました。「私は正しいと思うことは誰に対してもはっきり言うからね」との言葉通り、私の知る中でもその姿勢は貫かれていました。今回もお話を聞いて感じたことですが、「凛として、チャールミング」。相手の心に飾りをつけずに、まっすぐに思いを届け、時には鋭い指摘があつたとしても、また近づいていきたいと思わせる温かさと魅力があります。その熱心な言葉は常に不条理を正し、そして相手の成長を願っているからだと思ひます。

しかし、その保護者たちが子どもの卒園でいなくなると、また解雇されました。その後、高知市での採用はないと言われたため、養護学校免許と、聾学校免許を取って、障害児教育の道に進まれたそうです。

幼稚園の組合立ち上げから支援してくれていた男性と結婚されました。彼は高知市教組の役員として勤務を闘つた小学校教諭でしたが、仕事に親の世話(病気があったので)にと無理を重ねて、とうとう母親

(川村喜美)